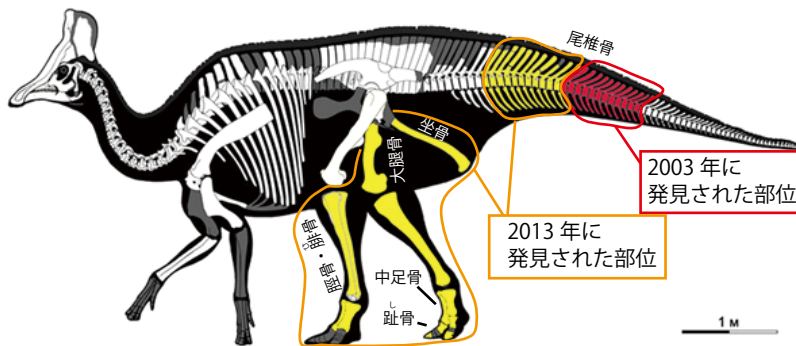
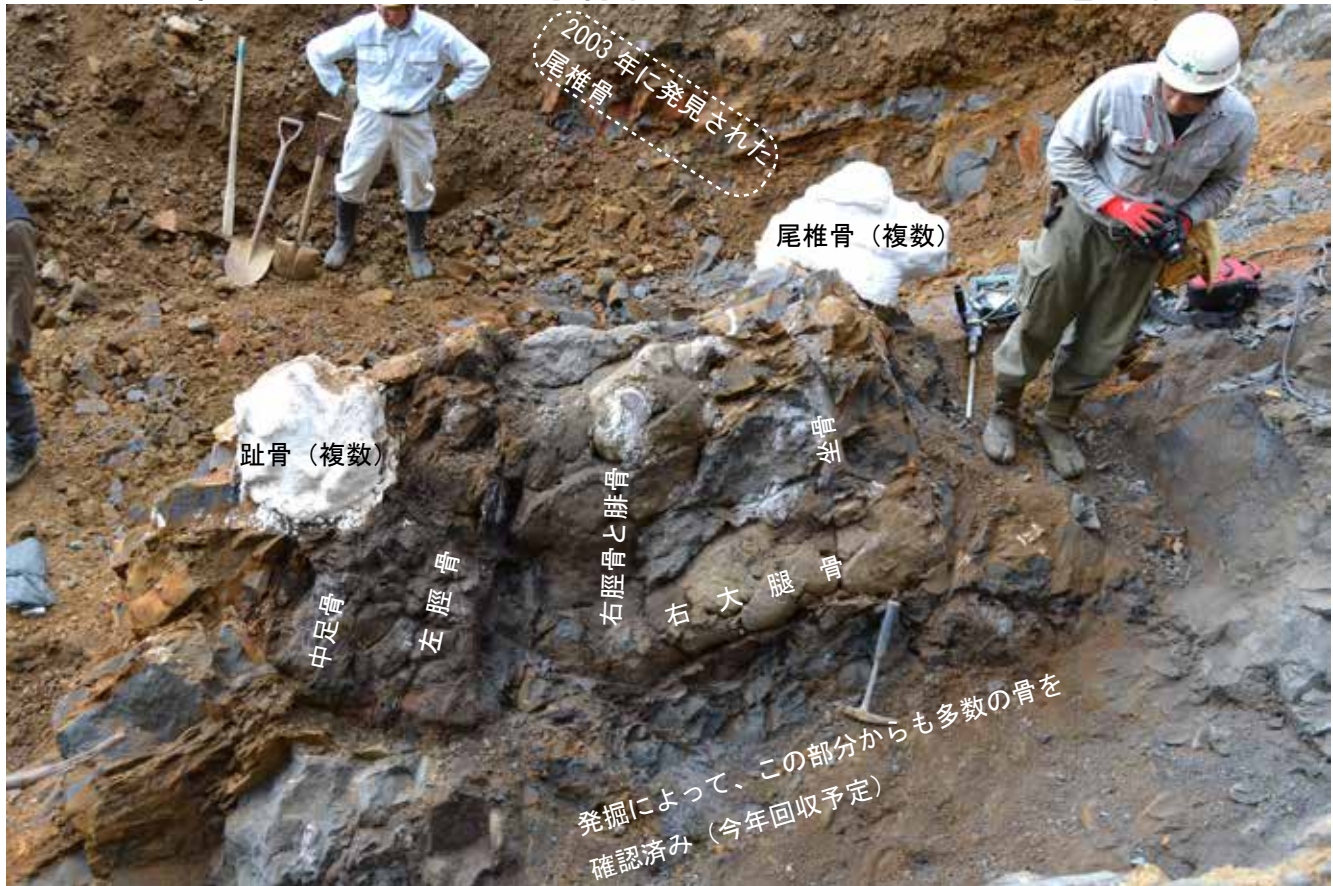


穂別恐竜発掘報告④

穂別恐竜には全身骨格が残っていることを確認



Olorotitan arharensis Godefroit et al., 2003

(写真上) 昨年9～10月の発掘風景。確認された主な骨の部位名を示している。写真は地層の下側から。骨が分布しているほぼ垂直の面が当時の海底面。右大腿骨と脛骨・腓骨が関節している状態(この場合、ヒザを曲げている形)で産した。

(左図) これまで確認された穂別産の恐竜化石のおおよその部位(図はロシアのオロロティタンの骨格を使用)

昨年の穂別恐竜一次発掘の成果をまとめて日本古生物学会(兵庫例会 1/24～26)で発表しました。

標本のクリーニング作業を進めた結果も含めて、発掘の成果を見直すと、一次発掘で得られたのは、尾椎骨の前方部分と後肢であることが分かってきました。これらの化石産状を見ると、多くの骨はバラバラに産していますが、右の大腿骨と脛骨・腓骨が関節したまま化石になっていることが分かりました(写真上)。第一次発掘で回収した部分だけでも、このように多数の骨が保存されていたこと、遊離した歯も産したことから、頭骨を含めた全身骨格が地層に埋蔵していることが、ほぼ確実にになりました。

アジアの恐竜、ハドロサウルス科の進化・古生態を明らかにする上で極めて重要



発掘成果のまとめを 日本古生物学会で発表



これまでの成果について、小林快次先生（北大総博・准教授）を中心にまとめ、西村が学会で口頭発表しました。

穂別恐竜の遺骸が流されている様子の復元画（©服部雅人）

全身が保存されている点で、この標本は国内有数の恐竜であるといえます。国内の全身骨格標本で、これまで良く知られているのは福井県や兵庫県産の前期白亜紀（約1億年以前）のものです。穂別の恐竜は白亜紀末（約7,200万年前）のもので、この時代のアジアのハドロサウルス科全身骨格として希少であることなどから、アジアの恐竜やハドロサウルス科の進化・古生態を考える上で極めて重要なものだといえます。

また、この恐竜の大腿骨の長さは約1.2mもあり、推定される体重が7.2t、全長が約8mほどあることが分かりました

学芸員 西村智弘

[アクセス]



開館時間 9:30~17:00 (最終入館 16:30)

入館料 個人 / 小～高校生：100円

大人 300円

団体 / 小～高校生：50円

大人 200円

※団体は10人以上 ※小学生未満は無料

休館日

3月

3(月) 10(月)
17(月) 24(月)
31(月)

4月

7(月) 14(月)
21(月) 28(月)
30(水)